

# 日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

No.1 平成21年2月(平成20年4月～12月分)

機関名 青森県水産総合研究センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スルメイカ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海では例年6月初旬から漁獲が始まり、10～11月に終漁となるが、今年度は6月下旬から獲れ出し、1月まで漁獲が見られた。</li> </ul> </li> <li>●ハタハタ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海側では産卵群の沿岸での漁獲が12月1日から始まった。沿岸・沖合漁業合計の漁獲量は1,363トンで(07年は151トン)、1975年以来33年ぶりに1千トンを超えた。漁獲されたハタハタは2歳魚がほとんどであった。</li> </ul> </li> <li>●マダラ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸奥湾のマダラは、1990年漁期以降72～24トンで推移してきたが、12月中旬から漁獲が始まった2008年漁期は、1月中旬現在で134トンと10年ぶりの好漁で推移している。漁獲魚の全長(75cm前後が主体)から5歳魚(2004年級群)が多いと推定されている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対馬暖流                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年に比べ春に勢力が強く、夏から秋にかけて弱く推移した。暖流域の水温は、11月の0m、50m層が平年よりやや高く、100m層ではかなり高い状況にあり、12月は0m、50m、100m層共にやや高くなっていた。</li> </ul> </li> <li>●定地水温                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月～5月に高め、8月は低めの傾向を示した。</li> </ul> </li> </ul>	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大型クラゲ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は出現が確認されなかった。</li> </ul> </li> </ul>

No.2 平成21年2月(平成20年4月～平成21年2月分) 機関名 青森県水産総合研究センター増養殖研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>●水温                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年4月からの陸奥湾の海況は、平年並みに推移し、特筆すべき事象はなかった。</li> <li>・平成21年1月に入ってから水温は高めに推移している。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホタテガイ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸奥湾では、4月から7月まで定期的に採苗情報速報を、8月以降は、ホタテガイ養殖管理情報をホタテガイ養殖漁業者、関係市町村に提供している。また、春と秋の2回養殖ホタテガイの実態調査を行っている。本年度はホタテガイの採苗、成育とも順調に推移している。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月4日陸奥湾でホタテガイ養殖漁船が大時化で遭難し8人が犠牲となる。</li> </ul> </li> <li>●水産経済:ナマコ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸奥湾のナマコ漁が10月1日に解禁されたが、中国向け加工ナマコの価格低迷により、キロ千円代前半となり、昨年漁期(キロ2,000円程度)に比べて大きく低下した。</li> </ul> </li> <li>●キタカギノテクラゲ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月中旬陸奥湾内の小湊浜子海水浴場でキタカギノテクラゲが大量発生して遊泳禁止となる。</li> </ul> </li> <li>●マダラ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に入ってから陸奥湾湾口部脇野沢、佐井地区でマダラが十数年ぶりに大漁となっている。(2月13日現在脇野沢、佐井漁協合計166トン)</li> </ul> </li> <li>●トド                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に入り陸奥湾湾口部にトドが出現し、定置網、底建網に多大な漁業被害が発生している。(2月9日佐井で1頭駆除)</li> </ul> </li> <li>●漂着物                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に入って日本海沿岸、陸奥湾沿岸にハングル文字で印字されたポリ容器が大量に漂着している。2月13日には当研究所周辺海岸で18リットルポリ容器1個が漂着発見された。</li> </ul> </li> </ul>

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<p>●春季のハタハタ分布状況 ・2008年4月及び5月に、例年であれば水深250m前後の海域に分布するハタハタが、水深200m以浅の海域にも大量に出現した。</p> <p>●ハタハタ接岸群の漁獲状況 ・今期のハタハタ接岸群(季節ハタハタ)の初漁は11月25日で、昨年より1日早く、1970年以降で最も早かった。</p> <p>・昨期は1歳魚の割合が高く、小型魚を保護するために漁業者が数回にわたって操業を中断した結果、漁獲量は770トンと2000年以降最も少なかった。今期は魚価の低迷もあり、昨期同様、次年度に資源を残すために各地区で操業の中断等を行ったが、漁獲量は2,018トンで2004年の2,020トンに次ぐ解禁後2番目に多い漁獲量であった。</p> <p>・しかし、今年度のハタハタ資源は06年生まれの2歳魚が99%を占めており、今後新たな年級群が加入しない場合、2010年以降は大きく減少することが懸念される。</p>	特になし	特になし	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<p>●フグ ・沿岸各地で9月以降、フグ稚魚が大量発生している。種類はゴマフグ、クサフグ、ショウサイフグ等の混成で、漁港内、磯場、砂浜等至る所で群を作り、遊漁の餌釣りが出来ない程である。水温低下とともに減少してきたが、酒田港では2月に入っても群が観察できる。遊漁者の間では、釣ったサワラの胃からフグが出てきた事例もあり、食べていいものかどうかという話題にもなった。</p>	<p>●水温 ・栽培漁業センター取水(水面下5mから)の水温の日変動や日間格差(最高水温と最低水温の差が3℃以上)が例年より大きい(春季、秋～冬季間で現在も続いている)。</p> <p>●ミズクラゲ ・6～8月にかけてと10月の前半にミズクラゲがスポット的に大量出現し、底びき網や定置等網漁業の一部に排出作業等の被害が出た。</p>	<p>●サケ ・平成20年度の水産試験場のサケ沿岸来遊尾数は116,638尾(平成15～19年度平均の47%)で、来遊予想の約半数にとどまった。</p>	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<p>●タコ類 ・9～12月のタコ類(特にミズダコ)が著しい不漁。主要8地区前年比44%、平年比(過去5年)48%。</p> <p>●ハタハタ ・ハタハタが12月に糸魚川市の定置網で漁獲(2日間で5.5トン)。初めての事例。</p>	<p>●ミズクラゲ ・ミズクラゲが5～8月に佐渡両津湾、粟島等で大漁出現。定置網等の操業に支障。</p>	特になし	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<p>●クロマグロ ・6月に定置網・中型まき網で好漁となった。定置網では6月中旬に内浦海域でまとまった水揚げがみられ、平年をかなり上回った。</p>	<p>●水温 ・外浦海域でかなり低め ・冷水域が能登半島西方に近づいたこともあり、外浦海域の平均水温は平年より低めで推移した。特に6月ははなはだ低めとなり、橋立港では過去20年間で最低、志賀町地先では観測を開始した平成4年以降で最低の平均水温を記録した。内浦海域・七尾湾も6月はやや低めとなった。</p>	特になし	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<p>●定置網 ・定置網へのサケガシラおよびテンガイハタの入網が多い(4月)。</p> <p>●ハタハタ ・産卵を控えたハタハタ親魚がまとまって漁獲された(12月)。</p>	特になし	<p>●養殖魚のへい死 ・高水温における養殖魚のへい死がみられた(8月)。(魚種:シマアジ・マサバ・ウマズラハギ・メバル・イシダイ・マアジ)</p>	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハタハタ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・底曳網漁業によるハタハタの漁獲量が3月に急増(188トン)、4月も155トンと例年よりやや小型の2歳魚主体の豊漁となった(1～12月計441トン)。</li> </ul> </li> <li>●アカガレイ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月府沖合で、標識アカガレイ(平成7年4月府沖合に体長36cmで放流)が放流後13年半を経て、兵庫県沖底船により再捕された。</li> </ul> </li> <li>●ブリ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月以降、寒ブリが12月末までで72.5トンと過去10年間('98～'07年)平均(9.7トン)を大きく上回っている。</li> </ul> </li> <li>●サワラ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・サワラの漁獲量が2,185トンと昨年に引き続き2,000トンを超え、3年連続日本一の漁獲量となった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カブトクラゲ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月以降5月頃まで定置網にカブトクラゲが大量入網し、操業や鮮度保持に支障を来した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トリガイ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の高水温のため、トリガイ養殖漁場の一部でトリガイの生残率の低い事例が確認された。</li> </ul> </li> <li>●ホンダワラ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の高水温の継続により、当所で育成中のホンダワラ越年種苗のほとんどに発育障害が発生し、沖出し出来なかった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カギノテクラゲ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中旬に阿蘇海の藻場で神経毒を持つカギノテクラゲが多数出現した。</li> </ul> </li> </ul>

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スルメイカ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・スルメイカの漁期開始が遅かった。(4～6月)</li> </ul> </li> <li>●ソデイカ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソデイカ長期漁況予報を公表(7月)</li> <li>・ソデイカ中短期予報発表(10月)</li> </ul> </li> <li>●その他           <ul style="list-style-type: none"> <li>・カニ籠脱出口試験実施(9～10月)</li> <li>・第19回日中韓水産研究者協議会参加(11月)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水温           <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月から8月にかけて沿岸域の表層水温が1～2℃高めに推移した。</li> </ul> </li> <li>●大型クラゲ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月上旬以降、大型定置網に散発的に1～数個体/統/日が確認された。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本海西部ズワイガニ等調査(カニ籠、底質等)実施(6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業調査船代船建造工事           <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般競争入札(5月)</li> <li>・着工(10月)</li> </ul> </li> </ul>

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●円石藻           <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月上旬に、島根県の沿岸で円石藻(ハプト藻)と呼ばれる植物プランクトンが大量発生し、海が白く濁る現象が発生した。これは島根県では初めての現象であった。</li> </ul> </li> <li>●水温           <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年の夏は、日本海西南部において例年にならぬほど表層の海水温が上昇した。浜田港での7月下旬～8月中旬の表層水温は平年より2～3℃高い30℃近くに達し、過去約30年の観測値中最高を記録した。</li> <li>・11月12～13日に、県中央部大田市の沖合でかなりの数の衰弱(あるいは死亡)したアカアマダイが底びき網に入ったり、弱って海面に浮いているのが報告された。調査の結果、原因は冷水塊の発達・移動による急激な水温低下によるものと推測された。</li> </ul> </li> </ul>	特になし	特になし

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
特筆すべき情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究の動向           <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラフグ親魚放流(4.5月)</li> <li>・魚群探索(5月)</li> <li>・モジャコ調査(5月)</li> <li>・アマダイ調査(5.6月)</li> <li>・アカムツ調査(7月)</li> <li>・メダイ調査(8月)</li> <li>・いわし抄網LED集魚灯試験(8月)</li> <li>・間伐材魚礁調査(7～9月)</li> <li>・カタクチシラス調査(10～12月)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●間伐材魚礁調査(4.5.6月)</li> <li>●沖合定線観測(4～11月)</li> <li>●赤潮発生状況           <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/15～5/30に萩市から長門市にかけて、ノクテルカシンティラヌスが発生したが、漁業被害は見られなかった。</li> <li>・7/23～8/8に響灘及び油谷湾でカレニアミキモイが発生したが、漁業被害は見られなかった。</li> </ul> </li> <li>●間伐材魚礁効果調査           <ul style="list-style-type: none"> <li>●貝毒原因プランクトン調査               <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙崎湾で11月上旬から貝毒原因プランクトンの分布調査を開始した。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アカアマダイ標識放流(4/19.22.5/22)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・H19年に当センター及び(社)山口県栽培漁業公社で生産した稚魚2.2万尾(平均全長80～100mm)に、イラストマー標識または腹鰭カットを施し、萩市～長門市沖の漁場及び萩越ヶ浜漁港内に放流した。</li> </ul> </li> <li>●アカアマダイ種苗生産試験           <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/9～12/12にかけて実施し、全長24～27mmの種苗約7万尾(生残率13.5～15.3%)を生産した。現在、引き続き中間育成中。</li> </ul> </li> <li>●キジハタ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・キジハタ種苗生産試験を7/10～8/26にかけて実施し、全長27mmの種苗115,725尾(生残率12.4%)を生産した。引き続き中間育成し、全長50～60mmの種苗約3.5万尾を県下各地に放流した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●タチウオ(水分、灰分、粗脂肪)の成分分析を実施した。</li> <li>●漁協婦人部を対象にスルメイカの加工品開発を実施した。</li> <li>●ハモのコラーゲン分析</li> <li>●トラフグの成分分析</li> </ul>